

#	タイトル	著者	出典	備考
8	地域別にみた熱中症死亡について：人口動態統計死亡票による検討	星 秋夫，中井 誠一，金田 英子，山本 享，稲葉 裕	日本生気象学会雑誌 46(3)，50， 2009-09-01	医中誌
9	熱中症発症や予防意識と体質・生活習慣との関係：大学のスポーツ部員を対象とした調査	梅宮 典子，大倉 良司	日本生気象学会雑誌 46(3)，49， 2009-09-01	医中誌
10	年齢階層別にみたウォーキング時における熱中症予防のための水分摂取基準	寄本 明，南 和広，新矢 博美，中井 誠一，芳田 哲也	日本生気象学会雑誌 46(3)，48， 2009-09-01	医中誌
11	黒球を用いないWBGT指数モニターの製品化とその評価：日常生活における熱中症予防指針，Ver. 1，2007の図1に基づく製品の開発	楊 曉華，金山 勝喜	日本生気象学会雑誌 46(3)，47， 2009-09-01	-
12	埼玉県における熱中症予防指針の基準区分の考察	深澤 拓，福岡 義隆	日本生気象学会雑誌 46(3)，23， 2009-09-01	医中誌 参考文献4件
13	都市域のさまざまな活動空間でのWBGTの比較	大橋 唯太，竜門 洋，重田 祥範	日本生気象学会雑誌 46(2)，59-68， 2009-06-01	医中誌 参考文献9件
14	A104 暑熱環境指数WBGTの長期計測から熱中症リスクをみる：岡山市街地を対象として(気候システムI)	大橋 唯太，山本 好美	大会講演予講集 95， 36，2009-04-30	CiNii PDF - オープンアクセス
15	暑熱環境が消火活動時の隊員の心身機能に及ぼす影響	橋本 好弘，森谷 [キヨシ]，大塚 吉則	日本生気象学会雑誌 45(4)，131-139， 2009-01-01	機関リポジトリ 医中誌 参考文献62件 被引用文献1件
16	P350 熊谷市熱中症予防情報と各熱中症指標計の比較について	鈴木 靖，鍋島 秀孝，蔵田 英之，柴田 雅美	大会講演予講集 94， 495，2008-10-31	CiNii PDF - オープンアクセス
17	熱中症危険度の地域特性とHWDI	登内 道彦，村山 貢司	日本生気象学会雑誌 45(3)，62， 2008-10-01	医中誌 参考文献1件 被引用文献1件
18	高齢者の熱中症死亡の動向	金里 英子，中井 誠一	日本生気象学会雑誌 45(3)，37， 2008-10-01	-

#	タイトル	著者	出典	備考
19	陸上競技長距離選手の熱中症既往者における暑熱環境下運動時の体温調節反応	樫村 修生 , 柏木 朋也 , 南 和広 , 中井 誠一	日本生気象学会雑誌 45(2), 95-100, 2008-08-01	医中誌 参考文献15件
20	「日常生活における熱中症予防指針」 Ver. 1	朝山正己、井川正治、石川勝敏、稲葉裕、入來正躬、宇野忠、梅宮典子、大野秀夫、小野雅司、小野寺福司、河端隆志、岸本孝志、桑原浩平、齋藤輝幸、菅原正志、田中英登、登内道彦、中井誠一、野本茂樹、平下政美、福岡義隆、星秋夫、本田靖、松原斎樹、松本孝朗、水越祐一、森本武利、寄本明、花輪啓一、丸山博、持田徹、山口隆子、山本享、芳田哲也、吉野正敏	日本生気象学会雑誌 45(1), 34-42, 2008-05-01	参考文献33件
21	「日常生活における熱中症予防指針」 Ver. 1 の策定経過	稲葉 裕 , 朝山 正己	日本生気象学会雑誌 45(1), 33, 2008-05-01	-
22	P107 気温と湿度から算出する熱中症指標の検証	鈴木 靖 , 蔵田 英之 , 柴田 雅美	大会講演予講集 93, 320, 2008-04-30	CiNii PDF - オープンアクセス
23	沖縄県における熱中症患者発生と気象の関係	比嘉 良守 , 花宮 義和 , 上江洲 久雄 [他]	沖縄技術ノート (69), 25-37, 2008-12	-
24	「日常生活における熱中症予防指針」 Ver. 1の策定経過	日本生気象学会熱中症予防研究委員会	日本生気象学会雑誌 45(1), 33-42, 2008-05	医中誌
25	283. 熱中症による長崎市消防局救急車出動の過去3年間の実態(環境, 第62回日本体力医学大会)	菅原 正志 , 田井村 明博	体力科学 56(6), 720, 2007-12-01	CiNii PDF - オープンアクセス 医中誌
26	D114 様々な日常活動空間における熱中症指標WBGTの観測 : 岡山市街地を対象にして(大気境界層)	大橋 唯太 , 竜門 洋 , 重田 祥範	大会講演予講集 92, 281, 2007-09-30	CiNii PDF - オープンアクセス

#	タイトル	著者	出典	備考
27	熱中症予防のための 気象情報(シンポジ ウム1:運動時の熱中 症予防指針への提 言)	登内 道彦	体力科学 56(1), 43, 2007-02-01	CiNii PDF - オープ ンアクセス J-STAGE 医中誌
28	都市気象・ビルエネ ルギー連成数値モデ ルを利用した熱中症 予報システムの開発 —大阪市を対象にし た検証例	大橋 唯太, 亀卦川 幸浩	環境情報科学論文集 21, 399-404, 2007	-
29	東京都と千葉市にお ける熱中症発生の特 徴	星 秋夫, 稲葉 裕, 村山 貢司	日本生気象学会雑誌 44(1), 3-11, 2007-06	医中誌 被引用文献2 件
30	日本各地における熱 中症の発生頻度とそ の傾向に関する研究	横山 太郎, 福岡 義隆	日本生気象学会雑誌 43(4), 145-151, 2007-02	医中誌
31	D103 熱中症指標 WBGT値の地域性とメ ソ気象モデルによる その再現性: 近畿 地方を対象として (環境気象)	大橋 唯太, 深尾 一仁	大会講演予講集 89, 208, 2006-04-30	CiNii PDF - オープ ンアクセス
32	39. 建設業における 熱中症による休業災 害の発生と気象条件 (第23回産業医科大 学学会総会学術講演 会記録)	堀江 正知, 永野 千景, 川瀬 洋平, 佐々木 直子, 藤井 ロナウド健蔵, 筒 井 隆夫	産業医科大学雑誌 28(1), 133, 2006-03-01	CiNii PDF - オープ ンアクセス 医中誌
33	熱中症発症の地域差 —山梨県と北海道の 比較から	入来 正躬, 橋本 眞明	日本生気象学会雑誌 43(1), 23-33, 2006-05	医中誌
34	中年ランナーにおけ る夏季ランニング時 の体重減少の実態— とくに水分補給の面 から	樫村 修生, 中井 誠一	日本生気象学会雑誌 42(4), 137-144, 2005-12	医中誌
35	誰もが危険 熱中症 の新常識<熱中症最 新情報ビデオ>	監修: (財)気象業務 支援センター専任主 任技師村山貢司、産 業医科大学産業保健 管理学研究室教授堀 江正知	-	http://www.avish.o rg/shinsaku/index. html

#	タイトル	著者	出典	備考
36	WBGTの連続観測と地表面・高さによる違い	村山貢司*、登内道彦（気象業務支援センター）、丸山博（京都電子工業㈱）	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/ams86_pj2_8_j.pdf
37	熱中症予防用暑熱環境計（WBGT計）の開発	丸山博（京都電子工業㈱）	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/wbgt_development.pdf
38	暑熱環境指標WBGTの連続観測と黒球温度の推定	村山貢司*、登内道彦（気象業務支援センター）	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/continuous_observation.pdf
39	熱中症予防のための暑さの指標：WBGT（湿球黒球温度）の活用	安岡整形外科脳外科 安岡 正蔵 著作「ヒート・ストローク熱射病のカルテ」海原 翔（ペンネーム）	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/heat_disorder.pdf
40	熱中症予防用WBGT暑熱環境計	田中通洋（ミドリ安全㈱）、丸山博（京都電子工業㈱）	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/technicalnote.pdf
41	スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック	日本体育協会スポーツ科学専門員会	-	http://www.kyoto-ken.com/ja/heat/pdf/sports.pdf

3) 平成 22 年度に発生した災害の事例分析

平成 22 年度は、大規模な災害は発生しなかった。また、発生した災害としては、梅雨前線や台風による風水害が多かった。

(1) 平成 22 年度に発生した災害について

① 平成 22 年 1 月から 10 月までの主な風水害

平成 22 年版「消防白書¹⁾」によると、平成 22 年 1 月から 10 月までの主な風水害は以下の通りであった。

図表 27 平成 22 年 1 月から 10 月までの主な風水害

平成 22 年 6 月中旬から 7 月中旬にかけて梅雨前線は九州から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。九州から東北にかけての広い範囲で大雨となり、局地的に 1 時間 80mm を超える猛烈な雨が観測され、特に岐阜県及び広島県を中心に大きな被害が発生した。

また、10 月下旬には、奄美地方付近に前線が停滞し、奄美大島で 1 時間に 120mm 以上の記録的な雨が観測され、大きな被害が発生した。

これらの風水害に伴う人的被害、住家被害は、死者・行方不明者 24 人、負傷者 23 人、全壊 49 棟、半壊 206 棟、一部破損 224 棟等となっている（第 1-5-2 表、平成 22 年 11 月 7 日現在）。さらには、平成 22 年 1 月から 10 月末までに発生した台風の数 は 14 個であり、このうち日本列島への上陸数は 2 個である（前年同時期 21 個、上陸数は 1 個）。

第 1-5-2 表 平成 22 年中の主な風水害による被害状況

番号	災害名	主な被災地	人的被害 (人)			住家被害 (棟)					都道府県の災害対策本部設置 (回)
			死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	
1	平成 22 年梅雨期における大雨	関東、中国、九州	16	5	21	42	74	208	1,786	5,702	6
2	鹿児島県奄美地方における大雨 (10月18~10月20日)	鹿児島県	3	0	2	7	132	15	465	901	1

(備考) 「消防庁被害報」等により作成

出典) 平成 22 年版「消防白書」

② 風水害の最近の動向

平成 22 年版「消防白書」によると、風水害の最近の動向は以下の通りであった。

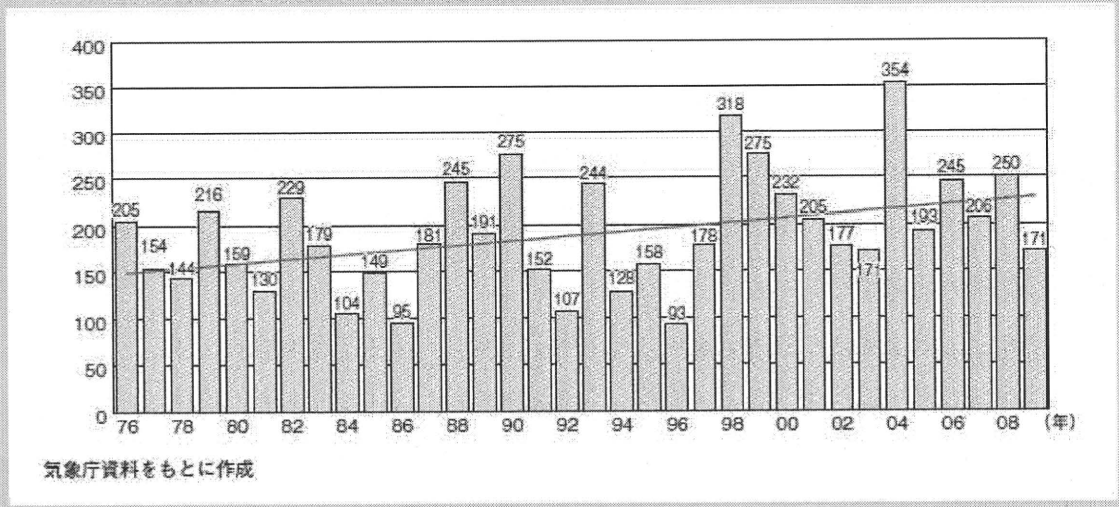
図表 28 風水害の最近の動向

近年、「集中豪雨」や「局地的大雨」による災害が注目されている。「集中豪雨」とは梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に数時間に渡って大量の雨を降らせるもので、総雨量が数百 mm に達することがある。このような大雨は、しばしば河川の氾濫や土砂災害を引き起こす。

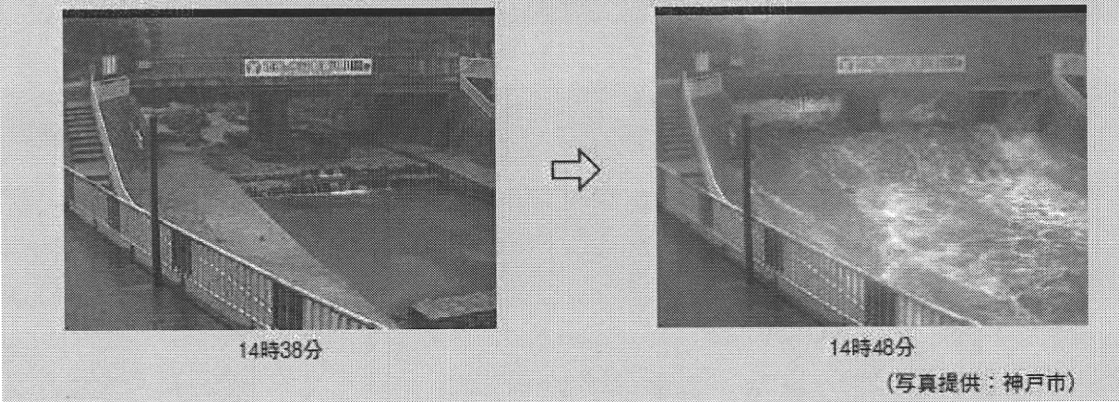
¹⁾ 消防白書 (<http://www.fdma.go.jp/concern/publication/index.html>)

一方「局地的大雨」は、夏場などに大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に局地的に激しい雨を降らせる減少のことで、数十 mm 程度の総雨量となる。こうした局地的大雨は、極めて局地的に雨を降らせ、かつ雨雲の発生から降雨までの時間が短いため、「ゲリラ的に大雨が降る」という意味で「ゲリラ豪雨」と呼ばれることがある。

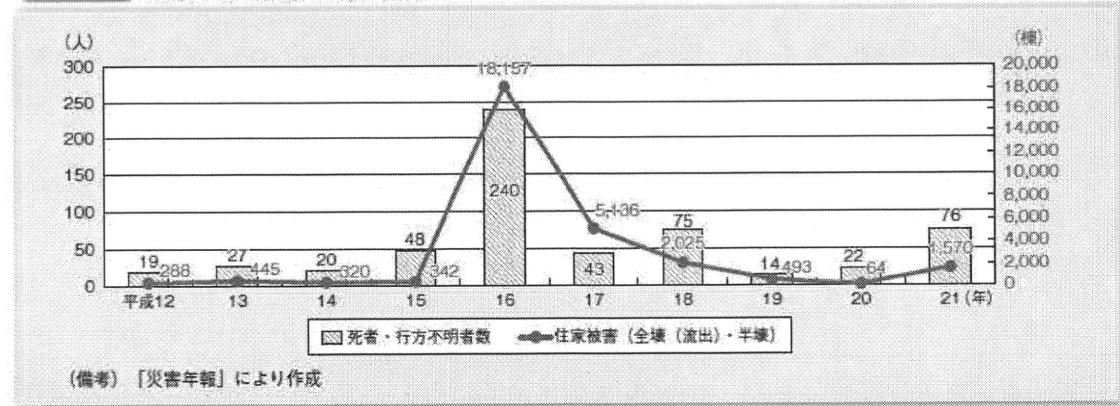
図 1 時間降水量50mm以上の年間発生回数（アメダス観測点1,000地点あたり）。短時間強雨の発生回数が近年増加傾向にあることがわかる。



平成20年7月28日の大雨では、兵庫県神戸市を流れる中小河川である都賀川の上流部に強い雨が降り注ぎ、下流部で一気に1.3mも水位が上昇し、5名の方が犠牲となった。



第1-5-1図 風水害による被害状況の推移



出典) 平成 22 年版「消防白書」—「局地的大雨や集中豪雨に備えて」(抜粋)

(2) 我が国の災害の状況

① 災害を受けやすい日本の国土

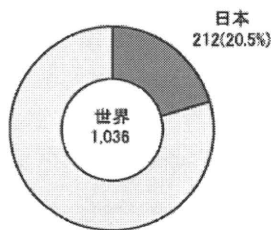
平成 22 年版「防災白書²⁾」によると、「災害を受けやすい日本の国土」について以下の通りであった。

図表 29 災害を受けやすい日本の国土

我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっている。世界全体に占める日本の災害発生割合は、マグニチュード6以上の地震回数 20.5%、活火山数 7.0%、死者数 0.3%、災害被害額 11.9%など、世界の 0.25%の国土面積に比して、非常に高くなっている。

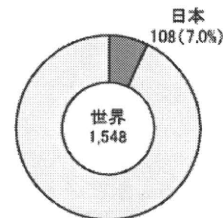
【世界の災害に比較する日本の災害】

マグニチュード6.0以上の地震回数



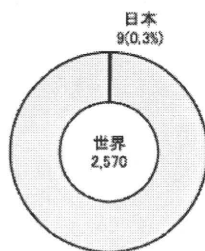
注) 2000年から2009年の合計。日本については気象庁、世界については米国地質調査所(USGS)の震源資料をもとに内閣府において作成。

活火山数



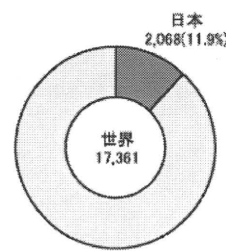
注) 活火山は過去およそ一万年以内に噴火した火山等。日本については気象庁、世界については米国のスミソニアン自然史博物館の火山資料をもとに内閣府において作成。

災害死者数(千人)



注) 1979年から2008年の合計。ベルギー・ルーバン・カトリック大学疫学研究センター(CRED)の資料をもとに内閣府において作成。

災害被害額(億ドル)



注) 1979年から2008年の合計。CREDの資料をもとに内閣府において作成。

²⁾ 防災白書は、災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第9条第2項の規定に基づき、政府が毎年国会に対して「防災に関してとった措置の概況」及び「防災に関する計画」の報告を行うもので、平成22年6月15日(火曜日)、平成22年版防災白書が閣議決定、国会報告された。(http://www.bousai.go.jp/hakusho/hakusho.html)

(1) 風水害

我が国は、おおむね温帯に位置し、春夏秋冬のいわゆる四季が明瞭に現れる。そして、四季の様々な気象現象として現れる台風、大雨、大雪などは、時には甚大な被害をもたらすことがある。

春から夏への季節の変わり目には、梅雨前線が日本付近に停滞し、活動が活発となって多量の降雨をもたらす。

また、夏から秋にかけて、熱帯域から北上してくる台風は、日本付近の天気には大きな影響を及ぼしており、毎年数個の台風が接近（年平均 10.8 個）、上陸（年平均 2.6 個）し、暴風雨をもたらしたり、前線の活動が活発となって大雨を降らせることがある。

冬には、シベリア大陸から吹き出す乾燥した強い寒気が日本海上で水蒸気の補給を受け、日本海側の地域に世界でもまれに見る大量の降雪・積雪をもたらす。

さらに、我が国は、その急峻な地形ゆえに、河川は著しく急勾配であり、ひとたび大雨に見舞われると急激に河川流量が増加し、洪水などによる災害が起こりやすくなっている。特に、洪水時の河川水位より低い沖積平野を中心に人口が集中し、高度な土地利用が行われるなどの国土条件の特徴と相まって、河川のはん濫等による被害を受けやすい。

また、我が国は、急峻な山地や谷地、崖地が多い上に、地震や火山活動も活発である等の国土条件に、台風や豪雨、豪雪に見舞われやすいという気象条件が加わり、土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害が発生しやすい条件下にある。特に、近年の林地や傾斜地又はその周辺における都市化の進展など土地利用の変化と相まって、土砂災害による犠牲者は、自然災害による犠牲者の中で大きな割合を占めている。

(2) 地震、津波、火山災害

地震の震源と火山のほとんどは、ともに地球上の特定の場所に帯状あるいは線状に細長く分布している。これらの分布と世界のプレートの分布を比較すると、地震の震源や火山の集中しているところのほとんどにはプレートとプレートの境界があることが分かる。

我が国は、海洋プレートと大陸プレートの境界に位置しているため、プレートの沈み込みにより発生するプレート境界型の巨大地震、プレートの運動に起因する内陸域の地殻内地震などが発生している。

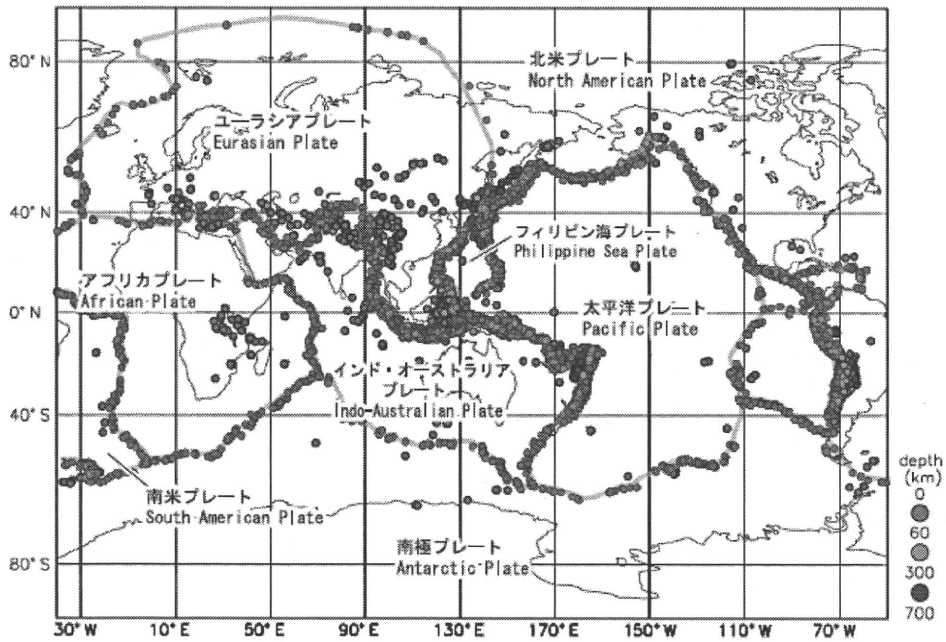
また、四方を海に囲まれ、海岸線は長く複雑なため、地震の際の津波による大きな被害も発生しやすい。

さらに、我が国は、環太平洋火山帯に位置し、全世界の 7.0% にあたる 108 の活火山が分布している。

これらの一方、自然災害をもたらす自然の力は、火山周辺地域における温泉や美しい風景、豊かな水資源などの恵みをもたらしている。有珠山の周辺のように、「火山との共生」を目指した地域づくりを行っているところもみられる。

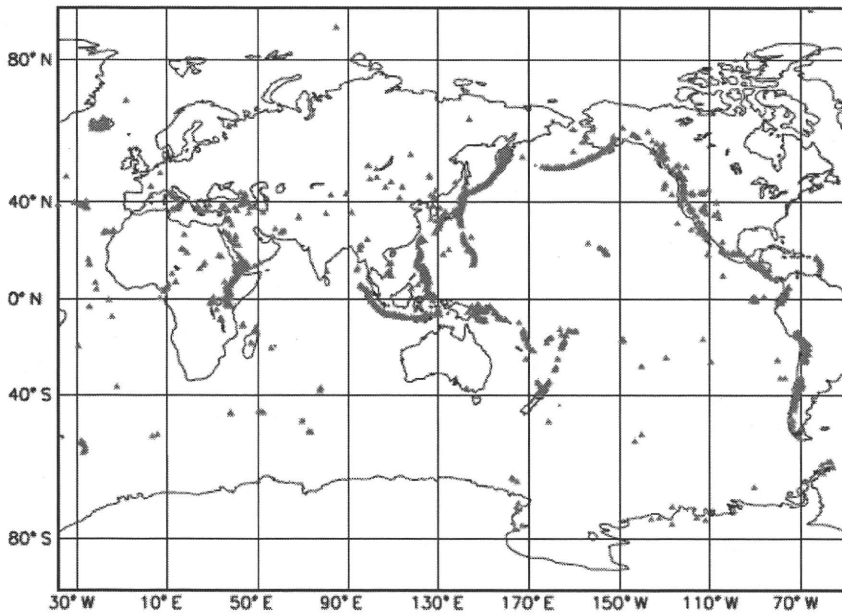
平成 21 年に震度 1 以上を観測した地震は、1,631 回（平成 20 年は 1,904 回）であった。また、火山については、平成 21 年は浅間山、三宅島、阿蘇山、桜島及び諏訪之瀬島において噴火が観測された。

【世界の地震プレート】



(注) 2000～2009年、マグニチュード5以上。
資料：アメリカ地質調査所の震源データをもとに気象庁において作成。

【世界の主な火山】



(注) 火山は過去おおむね一万年間に活動のあったもの。
資料：スミソニアン自然史博物館（アメリカ）のGlobal Volcanism Programによる火山データをもとに気象庁において作成。

出典) 平成 22 年 防災白書

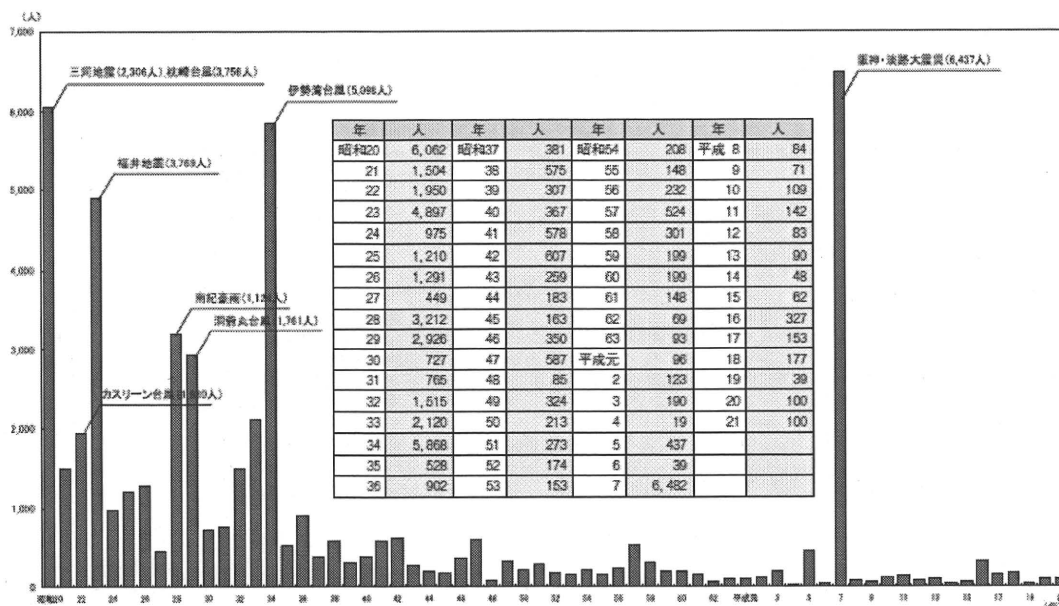
② 自然災害による死者・行方不明者の状況

平成 22 年版「防災白書」によると、自然災害による死者・行方不明者の状況については以下の通りであった。

図表 30 自然災害による死者・行方不明者の状況

我が国では、毎年、自然災害により多くの尊い人命や財産が失われている。

【図 1-2-1 自然災害による死者・行方不明者】



資料：昭和20年は主な災害による死者・行方不明者(理科年表による)。昭和21～27年は日本気象災害年報，昭和28年～37年は警察庁資料，昭和38年以降は消防庁資料による。

(注) 平成7年の死者のうち、阪神・淡路大震災の死者については、いわゆる関連死919名を含む(兵庫県資料)。平成21年の死者・行方不明者数は速報値(内閣府資料)。

昭和 20～30 年代前半には 1,000 人以上の人命が失われる大災害が頻発し、昭和 34 年の伊勢湾台風は死者・行方不明者が 5,000 人を超す未曾有の被害をもたらした。

伊勢湾台風以降の昭和 30 年代後半から、死者・行方不明者は著しく減少し、長期的に見ると遞減傾向にある。これは、治山・治水・海岸事業等の国土保全事業の積極的推進，災害対策基本法の制定等の防災関連制度の整備等による防災体制の充実，気象観測施設・設備の整備の充実，予報技術の向上，災害情報伝達手段の発展及び普及等によるところが大きい。

平成に入ってから死者・行方不明者は比較的低い水準で推移していたが、平成 7 年の阪神・淡路大震災においては、6,000 名を超える犠牲者を出し、戦後最大の大災害となった。

【表1-2-1 昭和20年以降の我が国の主な自然災害の状況】

年月日	災害名	主な被災地	死者・ 行方不明者数
昭和 20. 1. 13	三河地震 (M6.8)	愛知県南部	2,306人
9. 17 ~	枕崎台風	西日本 (特に広島)	3,756人
21. 12. 21	南海地震 (M8.0)	中部以西の日本各地	1,443人
22. 8. 14	浅間山噴火	浅間山周辺	11人
9. 14 ~	オスリーン台風	東海以北	1,930人
23. 6. 28	福井地震 (M7.1)	福井平野とその周辺	3,769人
9. 15 ~	アイオン台風	四国～東北 (特に岩手)	838人
25. 9. 2 ~	ジェーン台風	四国以北 (特に大阪)	539人
26. 10. 13 ~	キース台風	全国 (特に山口)	943人
27. 3. 4	十勝沖地震 (M8.2)	北海道南部、東北部	33人
28. 6. 25 ~	大岡 (前編)	九州、四国、中国 (特に北九州)	1,013人
7. 16 ~	南紀豪雨	東北以西 (特に和歌山)	1,124人
29. 5. 8 ~	風害 (低気圧)	北日本、近畿	670人
9. 25 ~	新島大台風	全国 (特に北海道、四国)	1,761人
32. 7. 25 ~	鎌早豪雨	九州 (特に熊本周辺)	722人
33. 6. 24	阿蘇山噴火	阿蘇山周辺	12人
9. 25 ~	狩野川台風	近畿以东 (特に静岡)	1,269人
34. 9. 26 ~	伊勢湾台風	全国 (九州を除く、特に愛知)	5,098人
35. 5. 23	ナリ地震津波	北海道南岸、三陸海岸、志摩海岸	142人
38. 1.	昭和38年1月豪雪	北陸、山陰、山形、滋賀、岐阜	231人
39. 6. 16	新潟地震 (M7.5)	新潟、秋田、山形	26人
40. 9. 10 ~	台風第23、24、25号	全国 (特に徳島、兵庫、福井)	181人
41. 9. 23 ~	台風第24、26号	中部、関東、東北、特に静岡、山梨	317人
42. 7. ~	7. 8月豪雨	中部以西、東北部	256人
43. 5. 16	十勝沖地震 (M7.9)	青森県を中心し北海道南部・東北地方	52人
47. 7. 3 ~	台風第6、7、9号及び7月豪雨	全国 (特に北九州、島根、広島)	447人
49. 5. 9	伊豆半島沖地震 (M6.9)	伊豆半島南岸	30人
51. 9. 8 ~	台風第17号及び9月豪雨	全国 (特に香川、岡山)	171人
52. 1.	雪害	東北、近畿北部、北陸	101人
52. 8. 7 ~ 53. 10.	有珠山噴火	北海道	3人
53. 1. 14	伊豆大島近海地震 (M7.0)	伊豆半島	25人
6. 12	宮城県沖地震 (M7.4)	宮城県	28人
54. 10. 17 ~	台風第20号	全国 (特に東海、関東、東北)	115人
55. 12. ~ 56. 3.	雪害	東北、北陸	152人
57. 7. ~ 8.	7. 8月豪雨及び台風第10号	全国 (特に長崎、熊本、三重)	439人
58. 5. 26	日本海中部地震 (M7.7)	秋田、青森	104人
7. 20 ~	梅雨前線豪雨	山陰以东 (特に鳥取)	117人
10. 3	三宅島噴火	三宅島周辺	-
12. ~ 59. 3.	雪害	東北、北陸 (特に新潟、富山)	131人
59. 9. 14	長野県西部地震 (M6.8)	長野県西部	29人
61. 11. 15 ~ 12. 18	伊豆大島噴火	伊豆大島	-
平成 2. 11. 17 ~	雲仙岳噴火	長門県	44人
5. 7. 12	北海道西南沖地震 (M7.8)	北海道	230人
7. 31 ~ 8. 7	平成5年8月豪雨	全国	79人
7. 1. 17	阪神・淡路大震災 (M7.3)	兵庫県	6,437人
12. 3. 31 ~ 13. 6. 28	有珠山噴火	北海道	-
6. 25 ~ 17. 3. 31	三宅島噴火及び新島・神津島近海地震	東京都	1人
16. 10. 20 ~ 21	台風第23号	全国	98人
10. 23	平成16年(2004年)新潟県中越地震 (M6.8)	新潟県	68人
17. 12. ~ 18. 3.	平成18年豪雪	北陸地方を中心とする日本海側	152人
19. 7. 16	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震 (M6.8)	新潟県	15人
20. 6. 14	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震 (M7.2)	東北 (特に宮城、岩手)	23人

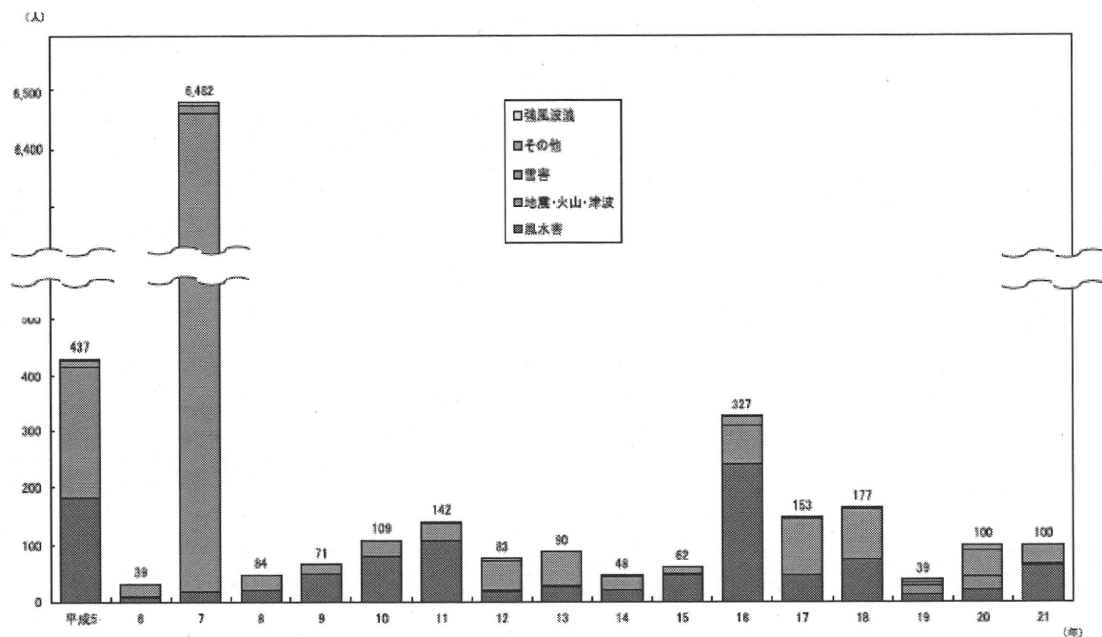
(注)

- 1 死者・行方不明者について、風水害は500人以上、雪害は100人以上、地震・津波・火山噴火は10人以上のものほか、災害対策基本法による非常災害対策本部等政府の対策本部が設置されたもの。
- 2 阪神・淡路大震災の死者・行方不明者については平成17年12月22日現在の数値。いわゆる関連死を除く地震発生当日の地震動に基づく建物倒壊・火災等を直接原因とする死者は、5,515人。
- 3 三宅島噴火及び新島・神津島近海地震の死者は、平成12年7月1日の地震によるもの。
- 4 平成13年の内閣府設置以降の我が国の自然災害の概要は、附属資料1を参照。

資料：気象年鑑、理科年表、消防庁資料、兵庫県資料

近年の自然災害による死者・行方不明者を災害別にみると図1-2-2のとおりであり、北海道南西沖地震、阪神・淡路大震災が起こった平成5、7年を除くと、風水害、雪害によるものが大きな割合を占めている。

【図1-2-2 災害原因別死者・行方不明者の状況】



(注) 消防庁資料をもとに内閣府において作成。地震には津波によるものも含む。
 平成7年の死者のうち、阪神・淡路大震災の死者については、いわゆる関連死919名を含む(兵庫県資料)。
 平成21年の死者・行方不明者数は速報値(内閣府資料)。
 内訳は附属資料2のとおり。

出典) 平成22年版「防災白書」

③ 災害をもたらした気象事例

気象庁の「災害をもたらした台風・大雨・地震・火山噴火等の自然現象のとりまとめ資料」³によると、過去に災害をもたらした気象事例については以下の通りであった。

ア) 災害をもたらした気象事例（平成元年～本年）

※ 被害を総合的にみて規模の大きなもの、社会的な関心・影響が高い事例を掲載。

図表 31 災害をもたらした気象事例（平成元年～本年）

#	年度	災害をもたらした気象事例	期間	概要	災害状況
1	平成22年 (2010年)	前線による大雨	10月18日～ 10月21日	奄美地方で大雨。	(速報) この大雨による死者は、鹿児島県奄美市で2名、鹿児島県大島郡龍郷町で1名となった。また、奄美地方では、家屋の浸水や土砂災害が多数発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。(被害の状況は内閣府などによる(平成22年10月24日15時30分現在))。
2	平成22年 (2010年)	梅雨前線による大雨	7月10日～7 月16日	西日本から東日本にかけて大雨。	(速報) この大雨により広島県・島根県・岐阜県において死者・行方不明者が14名となった。また、九州北部地方、中国地方、東海地方などを中心に各地で浸水害や土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも影響が出た。(被害の状況は総務省消防庁などによる(平成22年7月20日14時現在))
3	平成21年 (2009年)	台風第18号による暴風・大雨	10月6日～ 10月9日	沖縄地方から北海道の広い範囲で暴風・大雨。	(速報) この台風により、和歌山県、埼玉県および宮城県で死者5名となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生した。農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。さらに、茨城県土浦市と龍ヶ崎市、千葉県九十九里町等では、竜巻により負傷者や住家損壊が発生した。(消防庁情報 平成21年10月13日15:00 現在、国土交通省情報 平成21年10月13日11:00 現在による)
4	平成21年 (2009年)	熱帯低気圧・台風第9号による大雨	8月8日～8 月11日	九州から東北地方の広い範囲で大雨。	(速報) この台風により、徳島県、岡山県、兵庫県、長野県で死者14名、行方不明者16名となり、特に、兵庫県佐用郡佐用町では死者11名、行方不明者(状況不明も含む)13名となっている。また、岡山県、兵庫県、埼玉県など西日本から東日本の広い範囲で住家の浸水が約4,400棟となるなど各地で浸水害や土砂災害が発生した。さらに、農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生している。(消防庁情報 平成21年8月11日18:00 現在、国土交通省情報 平成21年8月11日16:30 現在による)

³ 気象庁の「災害をもたらした台風・大雨・地震・火山噴火等の自然現象のとりまとめ資料」(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saigai_link.html)

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
5	平成21年 (2009年)	平成21年7月中 国・九州北部豪雨	7月19日～7 月26日	九州北部・中国・四国地方な どで大雨。	(速報) この大雨により、広島県・山口県・福岡県・ 佐賀県・長崎県において死者・行方不明 者が30名となり、このうち防府市で土石流 や山崩れにより死者14名となっている。ま た、山口県・福岡県を中心に九州北部、中 国、四国地方などで住家の浸水が約 9,000棟となるなど各地で浸水害や土砂災 害が発生した。その他、停電、断水が発生 し、交通機関にも影響が出た。(被害の状 況は総務省消防庁などによる(平成21年7 月28日19時現在))
6	平成20年 (2008年)	平成20年8月末豪 雨	8月26日～8 月31日	愛知県を中心に東海・関東・ 中国および東北地方などで記 録的な大雨。	(速報) この大雨により、愛知県岡崎市では29日 に住家の浸水により死者2名となり、各地 で浸水害、土砂災害や落雷による停電等 が発生、また、鉄道など交通機関にも大き な影 響が出た。特に、住家の浸水は、愛知県 で名古屋市や岡崎市を中心に3,500棟を 大幅に超え、関東地方では千葉県や埼玉 県を中心に2,600棟に達するなど、中国、 東海、関東、東北地方などで被害が発生
7	平成20年 (2008年)	大気の状態不安 定による大雨	8月4日～8 月9日	関東甲信・東海・近畿・四国・ 九州地方を中心に大雨。	(速報) この雷を伴う大雨により、4日には山梨県 のほぼ全域(約56万4,800世帯)で停電し た。6日には、大阪府(枚方市など)で 2,000棟を超える住家が浸水し、栃木県那 須烏 山市の荒川の増水により1名が死亡した。 その他、各地で浸水害や土砂災害、落雷 による人身事故や停電等が発生し、交通 機関にも大きな影響が出た。また、5日 には東京都豊島区で下水道工事中の作業 員がマンホール内で流され、5名が死亡し
8	平成20年 (2008年)	大気の状態不安 定による大雨と突 風	7月27日～7 月29日	中国・近畿・北陸・東北地方を 中心に大雨。東北から近畿地 方の広い範囲で突風による被 害が発生。	(速報) この大雨により、各地で浸水害や土砂災 害が発生し、27日には群馬県みなかみ町 で河川の急激な増水により死者・行方不 明者2名、28日には兵庫県神戸市の都賀 川で急速な増水により死者5名、姫路市 では落雷により死者1名、また、石川県金沢 市では浅野川などのはん濫により2,500棟 を超える住家が浸水するなどの被害が発 生した。 また、27日には福井県敦賀市で突風(ガス トフロント)により死者1名となった。この他、 28日にかけて、東北から近畿地方の広い 範囲で突風による被害が発生した。
9	平成19年 (2007年)	秋雨前線による大 雨	9月15日～9 月18日	岩手県、秋田県、青森県の各 地で大雨。	死者3名、行方不明者1名、負傷者5名、住 家全壊6棟、半壊226棟、一部損壊6棟、床 上浸水374棟、床下浸水1,024棟など(気 象庁まとめ)
10	平成19年 (2007年)	台風第9号	9月5日～9 月9日	東海から北海道にかけて大 雨、暴風。	死者1名、行方不明者2名、負傷者87名、 住家全壊14棟、半壊62棟、一部損壊596 棟、床上浸水302棟、床下浸水1,043棟な ど(気象庁まとめ)
11	平成19年 (2007年)	台風第4号と梅雨 前線による大雨と 暴風	7月1日～7 月17日	沖縄から東南海部の太平洋 側にかけての広い範囲で大 雨。沖縄、西日本の太平洋側 と伊豆諸島で暴風。	死者6名、行方不明者1名、負傷者83名、 住家全壊32棟、半壊29棟、一部損壊234 棟、床上浸水501棟、床下浸水3,492棟な ど(気象庁まとめ)
12	平成19年 (2007年)	低気圧による暴 風、高波、大雪	1月6日～1 月9日	西日本から北日本の広い範 囲で暴風や高波および大雪。	負傷者14名、住家半壊15棟、一部損壊 562棟、床上浸水2棟、床下浸水36棟な ど(気象庁まとめ)

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
13	平成18年 (2006年)	低気圧による暴風 と大雨	10月4日～ 10月9日	近畿から北海道にかけて暴風 や大雨。各地で海難事故や 山岳遭難が発生。	死者34名、行方不明者16名、負傷者58 名、住家半壊15棟、一部損壊1,141棟、床 上浸水278棟、床下浸水1,138棟など（気 象庁まとめ）
14	平成18年 (2006年)	台風第13号	9月15日～9 月20日	沖縄地方、九州地方、中国地 方で暴風、大雨。宮崎県では 竜巻により死者が発生。	死者9名、行方不明者1名、負傷者448名、 住家全壊159棟、半壊514棟、一部損壊 11,221棟、床上浸水189棟、床下浸水 1,177棟など（消防庁より）
15	平成18年 (2006年)	平成18年7月豪雨	7月15日～7 月24日	長野県、鹿児島県を中心に九 州、山陰、近畿、北陸地方の 広い範囲で大雨。	死者28名、行方不明者2名、負傷者46名、 住家全壊275棟、半壊1,264棟、一部損壊 169棟、床上浸水1,572棟、床下浸水5,424 棟など（気象庁まとめ）
16	平成18年 (2006年)	梅雨前線による大 雨	6月21日～6 月28日	熊本県を中心に西日本で大 雨。	死者1名、負傷者8名、住家全壊1棟、一部 損壊18棟、床下浸水96棟など（気象庁ま まとめ）
17	平成17年 (2005年)	平成18年豪雪	平成17年12 月～平成18 年3月	12月から1月上旬を中心に大 雪、除雪中の事故等による甚 大な被害。	死者151名、負傷者2,136名、住家全壊18 棟、半壊26棟、一部損壊4,661棟、床上浸 水12棟、床下浸水101棟など（消防庁に よる）
18	平成17年 (2005年)	台風第14号、前 線	9月3日～9 月8日	九州・四国・中国地方で長時 間にわたる暴風雨、高波。4日 夜、東京都と埼玉県で局地的 に1時間に100ミリを超える猛 烈な雨。	死者26名、行方不明者3名、負傷者179 名、住家全壊1,178棟、半壊3,504棟、一 部損壊2,770棟、床上浸水7,626棟、床下 浸水13,534棟など（消防白書より）
19	平成17年 (2005年)	台風第11号	8月24日～8 月26日	関東地方南部と伊豆地方を 中心に大雨。	負傷者9名、住家半壊3棟、一部損壊118 棟、床上浸水58棟、床下浸水226棟など （消防白書より）
20	平成17年 (2005年)	梅雨前線による大 雨	7月8日～7 月10日	九州地方や東海地方で激し い雨。	死者6名、負傷者3名、住家全壊5棟、半壊 3棟、一部損壊6棟、床上浸水68棟、床下 浸水333棟など（消防白書より）
21	平成17年 (2005年)	梅雨前線による大 雨	7月1日～7 月6日	西日本と中部地方で記録的 な大雨。	死者5名、負傷者3名、住家全壊2棟、半壊 2棟、一部損壊13棟、床上浸水151棟、床 下浸水2,805棟など（消防白書より）
22	平成17年 (2005年)	梅雨前線による大 雨	6月28日	新潟県を中心に北陸地方で 大雨。	死者1名、負傷者7名、住家一部損壊4棟、 床上浸水175棟、床下浸水559棟など （消防白書より）
23	平成16年 (2004年)	台風第23号、前 線	10月18日～ 10月21日	広い範囲で大雨。土砂崩れ や浸水等により甚大な被害。	死者95名、行方不明者3名、負傷者721 名、住家全壊907棟、半壊7,929棟、一部 損壊12,514棟、床上浸水13,341棟、床下 浸水41,006棟など（消防白書より）
24	平成16年 (2004年)	台風第22号、前 線	10月7日～ 10月9日	台風の中心付近では猛烈な 雨や風。静岡県石廊崎で最 大瞬間風速67.6m/s。	死者7名、行方不明者2名、負傷者170名、 住家全壊136棟、半壊299棟、一部損壊 5,081棟、床上浸水2,121棟、床下浸水 6,189棟など（消防白書より）
25	平成16年 (2004年)	台風第21号、秋 雨前線	9月25日～9 月30日	三重県では1時間に130mmを 超える猛烈な雨。尾鷲の日降 水量740.5mm。	死者26名、行方不明者1名、負傷者107 名、住家全壊75棟、半壊818棟、一部損壊 1,629棟、床上浸水5,385棟、床下浸水 15,431棟など（消防白書より）
26	平成16年 (2004年)	台風第18号	9月4日～9 月8日	沖縄地方から北海道地方に かけて、各地で猛烈な風。広 島で最大瞬間風速60.2m/s、 札幌で50.2m/s。	死者43名、行方不明者3名、負傷者1,399 名、住家全壊144棟、半壊1,506棟、一部 損壊63,343棟、床上浸水1,328棟、床下浸 水19,758棟など（消防白書より）
27	平成16年 (2004年)	台風第16号	8月27日～8 月31日	高松港、宇野港などで観測開 始以来最も高い潮位を観測。 瀬戸内中心に高潮被害顕 著。	死者14名、行方不明者3名、負傷者260 名、住家全壊51棟、半壊205棟、一部損壊 9,921棟、床上浸水14,456棟、床下浸水 31,764棟など（消防白書より）

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
28	平成16年 (2004年)	台風第15号、前線	8月17日～8月20日	四国地方や九州地方などで非常に激しい雨。日本海側の各地で、台風接近時を中心に暴風。	死者10名、負傷者35名、住家全壊19棟、半壊86棟、一部損壊728棟、床上浸水410棟、床下浸水2,141棟など（消防白書より）
29	平成16年 (2004年)	台風第10・11号	7月29日～8月6日	相次いで四国に上陸。徳島県で、これまでの日本の記録を上回る日降水量1317mm。	死者3名、負傷者15名、住家全壊11棟、半壊21棟、一部損壊88棟、床上浸水254棟、床下浸水2,188棟など（消防白書より）
30	平成16年 (2004年)	平成16年7月福井豪雨	7月17日～7月18日	福井県や岐阜県で大雨。福井県美山では1日で平年の月降水量を上回る降水量。	死者4名、行方不明者1名、負傷者19名、住家全壊57棟、半壊142棟、一部損壊212棟、床上浸3,323棟、床下浸水10,334棟など（消防白書より）
31	平成16年 (2004年)	平成16年7月新潟・福島豪雨	7月12日～7月14日	新潟県中越地方や福島県会津地方で記録的な大雨。	死者16名、負傷者83名、住家全壊71棟、半壊5,657棟、一部損壊82棟、床上浸水1,916棟、床下浸水6,261棟など（消防白書より）
32	平成16年 (2004年)	台風第6号	6月18日～6月22日	台風接近・通過時を中心に暴風。九州地方から東海地方にかけての太平洋側で300mmを超える大雨。	死者2名、行方不明者3名、負傷者116名、住家半壊6棟、一部損壊218棟、床上浸水3棟、床下浸水58棟など（消防白書より）
33	平成15年 (2003年)	台風第14号	9月10日～9月14日	猛烈な勢力で宮古島を通過。宮古島で最大瞬間風速74.1m/s。	死者3名、負傷者110名、住家全壊18棟、半壊87棟、一部損壊1,437棟、床上浸水72棟、床下浸水303棟など（消防白書より）
34	平成15年 (2003年)	台風第10号	8月7日～8月10日	日本列島を縦断。全国で大雨、西日本で暴風。室戸岬で最大瞬間風速69.2m/s。	死者17名、行方不明者2名、負傷者94名、住家全壊28棟、半壊27棟、一部損壊559棟、床上浸水389棟、床下浸水2,009棟など（消防白書より）
35	平成15年 (2003年)	前線、低気圧	7月18日～7月21日	梅雨前線が日本海に停滞。九州北部で1時間50mmを超える非常に激しい雨。	死者23名、負傷者25名、住家全壊51棟、半壊56棟、一部損壊161棟、床上浸水3,558棟、床下浸水4,188棟など（消防白書より）
36	平成14年 (2002年)	台風第21号	9月30日～10月3日	関東南部に上陸し、北日本を縦断。関東から北日本の太平洋側で暴風。静岡県石廊崎で最大瞬間風速53.0m/s。	死者4名、負傷者108名、住家全壊12棟、半壊64棟、一部損壊2,360棟、床上浸水307棟、床下浸水1,947棟など（防災白書より）
37	平成14年 (2002年)	台風第6号、梅雨前線	7月8日～7月12日	房総半島上陸。中部地方から東北地方で大雨、関東南部で暴風。岐阜県根尾村で日降水量495mm、八丈島で最大瞬間風速46.1m/s。	死者6名、行方不明者1名、負傷者30名、住家全壊21棟、半壊29棟、一部損壊210棟、床上浸水2,382棟、床下浸水7,936棟など（防災白書より）
38	平成13年 (2001年)	台風第16号	9月6日～9月13日	沖縄近海で複雑な動き。久米島で最大瞬間風速50.8m/s、期間降水量967.5mmの記録的な大雨。	死者・行方不明者2名、負傷者9名、住家全半壊・一部損壊261棟、床上浸水814棟、床下浸水534棟など（防災白書より）
39	平成13年 (2001年)	台風第15号	9月8日～9月12日	関東南部に上陸、東海から関東山沿いを中心に大雨。栃木県奥日光で期間降水量895mm。	死者・行方不明者8名、負傷者51名、住家全半壊・一部損壊300棟、床上浸水183棟、床下浸水1,202棟など（防災白書より）
40	平成13年 (2001年)	前線、低気圧	9月2日～9月7日	九州南部から四国で1時間100mmを超える猛烈な雨。紀伊半島南部に上陸、東日本を中心に大雨。	負傷者8名、住家全半壊・一部損壊306棟、床上浸水272棟、床下浸水906棟など（防災白書より）
41	平成13年 (2001年)	台風第11号	8月20日～8月22日	紀伊半島南部に上陸、東日本を中心に大雨。三重県尾鷲で日降水量549mm、和歌山県潮岬で最大瞬間風速38.2m/s。	死者6名、負傷者29名、住家半壊・一部損壊160棟、床上浸水299棟、床下浸水894棟など（防災白書より）
42	平成13年 (2001年)	梅雨前線	7月11日～7月13日	梅雨前線が日本海に停滞。九州北部で1時間50mmを超える非常に激しい雨。	住家一部損壊5棟、床上浸水66棟、床下浸水687棟など（防災白書より）

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
43	平成12年 (2000年)	停滞前線、台風 第14・15・17号	9月8日～9 月17日	東海地方で記録的な大雨、7 万棟が浸水。名古屋市で日 降水量428mm。	死者10名、行方不明者2名、負傷者118 名、住家全壊30棟、半壊176棟、一部損壊 185棟、床上浸水22,885棟、床下浸水 46,342棟など（消防白書より）
44	平成12年 (2000年)	大気の状態不安 定、台風第3号	7月3日～7 月9日	伊豆諸島で暴風、関東から北 海道の太平洋側で大雨。八 丈島で最大瞬間風速 49.3m/s。	負傷者10名、住家全壊3棟、一部損壊69 棟、床上浸水1,022棟、床下浸水4,621棟 など（消防白書より）
45	平成11年 (1999年)	低気圧	10月27日～ 10月28日	低気圧が本州南岸で急速に 発達。千葉県佐原市で1時間 153mmの記録的な大雨。	死者4名、行方不明者1名、負傷者7名、住 家全壊30棟、半壊19棟、一部損壊204棟、 床上浸水1,449棟、床下浸水4,073棟など （防災白書より）
46	平成11年 (1999年)	台風第18号	9月21日～9 月25日	熊本県に上陸。熊本県で顕 著な高潮被害。南西諸島・九 州・中国地方で猛烈な風、中 部地方で大雨、愛知県で竜 巻発生。	死者31名、負傷者1,211名、住家全壊343 棟、半壊3,629棟、一部損壊107,634棟、 床上浸水4,947棟、床下浸水14,697棟など （防災白書より）
47	平成11年 (1999年)	前線、台風第16 号	9月14日～9 月16日	九州南部に上陸後、四国から 本州中部へ。岐阜県で長良 川が氾濫。	死者7名、行方不明者1名、負傷者11名、 住家全壊9棟、半壊22棟、床上浸水308 棟、床下浸水3,006棟など（消防白書よ り）
48	平成11年 (1999年)	熱帯低気圧	8月13日～8 月16日	関東地方中心に大雨、神奈 川県倉川で人的被害。	死者16名、行方不明者1名、負傷者11名、 住家全壊6棟、半壊26棟、一部損壊31棟、 床上浸水859棟、床下浸水5,128棟など （防災白書より）
49	平成11年 (1999年)	梅雨前線、低気 圧	6月23日～7 月3日	西日本で激しい雨。福岡市で 地下街に浸水害、広島県で 土砂災害。	死者38名、行方不明者1名、負傷者78名、 住家全壊127棟、半壊98棟、一部損壊518 棟、床上浸水3,701棟、床下浸水16,368棟 など（防災白書より）
50	平成10年 (1998年)	前線、台風第10 号	10月15日～ 10月18日	九州南部に上陸、西日本縦 断。和歌山で最大瞬間風速 53.8m/s。	死者12名・行方不明者1名、負傷者68名、 住家全壊33棟、半壊34棟、一部損壊 1,314棟、床上浸水3,673棟、床下浸水 10,911棟など（防災白書より）
51	平成10年 (1998年)	前線	9月23日～9 月25日	高知県で記録的な大雨。高知 で1時間129.5mmの猛烈な 雨。	死者9名、負傷者14名、住家全壊31棟、半 壊32棟、一部損壊117棟、床上浸水9,720 棟、床下浸水9,973棟など（防災白書よ り）
52	平成10年 (1998年)	台風第8・7号	9月20日～9 月23日	台風第8号、第7号が2日連続 して近畿地方に上陸。三重県 上野で最大瞬間風速 56.4m/s。	死者18名、行方不明者1名、負傷者611 名、住家全壊87棟、半壊1121棟、一部損 壊49,027棟、床上浸水1,757棟、床下浸水 8,822棟など（防災白書より）
53	平成10年 (1998年)	台風第5号	9月15日～9 月17日	静岡県に上陸後、北日本を縦 断。関東で暴風、東日本から 北日本で大雨。千葉県銚子 で最大瞬間風速45.7m/s、北 海道広尾で日降水量346mm。	死者7名、負傷者47名、住家全壊4棟、半 壊17棟、床上浸水1,296棟、床下浸水 5,044棟など（消防白書より）
54	平成10年 (1998年)	前線、台風第4号	8月26日～8 月31日	栃木県北部から福島県にかけ て記録的な大雨(平成10年8 月末豪雨)。栃木県那須町で 日降水量607mm。	死者22名、行方不明者2名、負傷者55名、 住家全壊101棟、半壊156棟、一部損壊 249棟、床上浸水3,329棟、床下浸水 11,518棟など（防災白書より）
55	平成10年 (1998年)	梅雨前線	8月3日～8 月7日	新潟県(下越、佐渡)で記録 的な大雨(平成10年8月上旬 豪雨)。新潟で日降水量 265mm。	死者2名、負傷者3名、住家全壊3棟、半壊 16棟、一部損壊18棟、床上浸水2,560棟、 床下浸水15,134棟など（防災白書より）
56	平成9年 (1997年)	台風第19号	9月13日～9 月17日	九州南部に上陸、九州南部 や四国で暴風。西日本から中 部地方の太平洋側で大雨。 宮崎県えびの市で日降水量 688mm。	死者10名、負傷者26名、住家全壊35棟、 半壊39棟、一部損壊1,194棟、床上浸水 4,010棟、床下浸水13,535棟など（防災 白書より）
57	平成9年 (1997年)	前線、台風第11 号	8月3日～8 月13日	九州・四国地方や北海道など で大雨。長崎県平戸で期間 降水量708mm。	負傷者4名、住家全壊2棟、半壊6棟、一部 損壊20棟、床上浸水66棟、床下浸水559 棟など（防災白書より）

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
58	平成9年 (1997年)	台風第9号	7月24日～7 月29日	四国東部に上陸、四国地方を 横断、四国から東海地方にか けて暴風や大雨。室戸岬で最 大瞬間風速52.2m/s、奈良県 上北山村で日降水量734mm。	負傷者46名、住家全壊12棟、半壊7棟、一 部損壊183棟、床上浸水406棟、床下浸水 2,710棟など（防災白書より）
59	平成9年 (1997年)	梅雨前線、低気 圧	7月1日～7 月17日	西日本から中部地方で大雨、 鹿児島県出水市で土石流被 害。熊本県旭志村で期間降 水量1,495mm。	死者26名、負傷者17名、住家全壊36棟、 半壊20棟、一部損壊94棟、床上浸水388 棟、床下浸水8,786棟など（防災白書よ り）
60	平成9年 (1997年)	台風第8号	6月26日～6 月29日	九州北部に上陸後、本州を縦 断。九州北部・中国・四国地 方で大雨。鳥取県鹿野町で 日降水量311mm。	死者3名、負傷者47名、住家全壊3棟、半 壊5棟、床上浸水45棟、床下浸水906棟な ど（消防白書より）
61	平成8年 (1996年)	台風第17号	9月21日～9 月23日	房総半島沖を北東進、関東南 部や伊豆諸島で暴風雨。銚 子で最大瞬間風速51.9m/s、 東京都新島で期間降水量が 391mm。	死者13名、負傷者96名、住家全壊13棟、 半壊68棟、床上浸水2,900棟、床下浸水 10,018棟など（消防白書より）
62	平成8年 (1996年)	台風第12号	8月11日～8 月15日	熊本県に上陸し、日本海を 経て東北へ。南西諸島から西日 本で猛烈な風。鹿児島で最大 瞬間風速58.5m/s。	死者5名、負傷者85名、住家全壊11棟、半 壊60棟、床上浸水76棟、床下浸水1,796 棟など（消防白書より）
63	平成8年 (1996年)	前線、大気の状態が不安定	7月3日～7 月4日	熊本・宮崎県で短時間強雨。 山形・宮城県で落雷。	死者2名、負傷者16名、住家全壊1棟、床 上浸水23棟、床下浸水556棟など（消防 白書より）
64	平成7年 (1995年)	前線、台風第12 号	9月16日～9 月17日	伊豆諸島・千葉県で暴風雨。 三宅島で最大瞬間風速 55.4m/s以上、千葉県勝浦で 日降水量232mm。	死者2名、行方不明者2名、負傷者28名、 住家全壊19棟、半壊36棟、床上浸水111 棟など（消防白書より）
65	平成7年 (1995年)	前線、大気の状態が不安定	8月9日～8 月11日	前線が日本海から本州南岸 へ南下、山形・新潟・鹿児島 県で大雨。鹿児島で1時間 104.5mm。	死者1名、負傷者2名、住家全壊15棟、半 壊20棟、床上浸水803棟など（消防白書 より）
66	平成7年 (1995年)	梅雨前線	6月30日～7 月22日	信越地方を中心に甚大な被 害。	死者4名、行方不明者1名、負傷者16名、 住家全壊85棟、半壊126棟、一部損壊405 棟、床上浸水2,195棟、床下浸水16,013棟 など（防災白書より）
67	平成6年 (1994年)	台風第26号	9月28日～9 月30日	和歌山県南部に上陸し本州 横断。紀伊半島で暴風雨。三 重県津で最大瞬間風速 48.7m/s、奈良県上北山村で 日降水量733mm。	死者3名、負傷者62名、住家全壊18棟、半 壊167棟、床上浸水569棟など（消防白 書より）
68	平成6年 (1994年)	寒冷低気圧	9月22日～9 月24日	仙台市を中心に大雨、日降水 量147mm。	負傷者2名、住家全壊7棟、半壊11棟、床 上浸水3,565棟など（消防白書より）
69	平成6年 (1994年)	大気の状態が不安定、寒冷前線	9月2日～9 月8日	大阪府北部から兵庫県南東 部で局地的大雨。大阪府豊 中市で1時間91mm。	負傷者76名、住家全壊1棟、半壊2棟、床 上浸水2,515棟など（消防白書より）
70	平成5年 (1993年)	台風第13号	9月1日～9 月5日	非常に強い勢力で九州南部 に上陸。種子島で最大瞬間 風速59.1m/s、宮崎県日之影 町で日降水量540mm。	死者・行方不明者48名、負傷者396名、住 家全壊336棟、半壊1,448棟、床上浸水 3,770棟など（消防白書より）
71	平成5年 (1993年)	梅雨前線、台風 第7・11号	7月31日～8 月29日	九州南部を中心に甚大な被 害。平成5年(1993年)8月豪 雨(7/31-8/7)台風第5号、第 6号相次いで九州へ上陸。	死者・行方不明者93名、負傷者219名、住 家全壊525棟、半壊425棟、床上浸水 16,496棟など（消防白書より）

#	年度	災害をもたらした 気象事例	期間	概要	災害状況
72	平成5年 (1993年)	台風第5・6号	7月26日～7 月30日	台風第5号、第6号相次いで九州へ上陸。	死者・行方不明者14名、負傷者22名、住家全壊24棟、半壊17棟、床上浸水400棟など（消防白書より）
73	平成5年 (1993年)	梅雨前線、台風第4号	5月13日～7 月25日	前線の活動が長期間活発、台風第4号四国に上陸。九州南部で年間降水量に匹敵する大雨。	死者・行方不明者26名、負傷者37名、住家全壊58棟、半壊64棟、床上浸水1,025棟など（消防白書より）
74	平成4年 (1992年)	台風第10号	8月6日～8 月9日	熊本県に上陸後、中国地方を経て日本海へ。温帯低気圧に変わり北日本でも大雨。	死者2名、負傷者81名、住家全壊47棟、半壊157棟、床上浸水204棟（消防白書）
75	平成3年 (1991年)	前線、台風第17、18、19号	9月12日～9 月28日	台風が相次いで日本に上陸・接近。台風第19号の暴風による死者多数。	死者84名、行方不明者2名、負傷者3,133名、住家全壊1,177棟、半壊14,287棟、床上浸水18,815棟、床下浸水70,585棟（防災白書、消防白書）
76	平成3年 (1991年)	梅雨前線	6月2日～8 月8日	梅雨前線の活動が長期間活発、各地に被害。	死者4名、負傷者11名、住家全壊7棟、半壊18棟、床上浸水1,073棟、床下浸水94,735棟（防災白書、消防白書）
77	平成2年 (1990年)	前線、台風第20号	9月26日～ 10月1日	台風が和歌山県に上陸。九州から関東の太平洋側で大雨。	死者5名、行方不明者1名、負傷者24名、住家全壊32棟、半壊40棟、床上浸水3,280棟、床下浸水11,134棟（防災白書、消防白書）
78	平成2年 (1990年)	前線、台風第19号	9月11日～9 月20日	台風が和歌山県に上陸し、本州縦断。西日本で総降水量1,000ミリを超える。	死者42名、行方不明者2名、負傷者197名、住家全壊240棟、半壊816棟、床上浸水8,333棟、床下浸水58,029棟（防災白書、消防白書）
79	平成2年 (1990年)	梅雨前線	6月2日～7 月22日	九州地方を中心に大きな被害。	死者32名、負傷者109名、住家全壊219棟、半壊290棟、床上浸水10,186棟、床下浸水39,419棟（防災白書、消防白書）
80	平成元年 (1989年)	台風第22号、前線	9月17日～9 月20日	九州南部に上陸し、本州南岸を進む。太平洋側中心に大雨。	死者・行方不明者9名、負傷者8名、住家全壊26棟、床上浸水714棟、床下浸水9,029棟（防災白書）
81	平成元年 (1989年)	前線、低気圧	8月31日～9 月16日	日本付近に前線が停滞し、西日本から中部地方で大雨による浸水被害。	死者20名、負傷者24名、住家全壊31棟、半壊41棟、床上浸水26,777棟、床下浸水44,668棟（防災白書、消防白書）
82	平成元年 (1989年)	台風第17号	8月25日～8 月29日	四国・本州・北海道に上陸。	死者・行方不明者6名、負傷者9名、住家全壊2棟、床上浸水627棟、床下浸水4,928棟（防災白書）
83	平成元年 (1989年)	台風第11、12、13号	7月24日～8 月7日	3個の台風が相次いで上陸・接近。	死者29名、行方不明者2名、負傷者96名、住家全壊59棟、半壊177棟、床上浸水6,338棟、床下浸水18,121棟（防災白書、消防白書より）
84	平成元年 (1989年)	梅雨前線、台風第6号	6月8日～7 月18日	梅雨前線により西日本から東日本で大雨、台風が九州縦断。	死者16名、負傷者3名、住家全壊1棟、床上浸水69棟、床下浸水2,105棟（防災白書、消防白書）

出典) 気象庁「災害をもたらした台風・大雨・地震・火山噴火等の自然現象の

とりまとめ資料」(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saigai_link.html)

イ) 災害をもたらした気象事例 (昭和 20～63 年)

※ 死者・行方不明者数が 100 名以上の風水害・雪害の事例および気象庁が命名した台風の事例を掲載。

図表 32 災害をもたらした気象事例 (昭和 20～63 年)

#	年度	災害をもたらした気象事例	期間	概要	災害状況
1	昭和59年 (1984年)	昭和59年豪雪	昭和58年 (1983年)12月～昭和59年(1984年)3月	太平洋側でも雪による被害が多発。	死者131名、負傷者1,366名、住家全壊61棟、半壊128棟、床上浸水70棟、床下浸水852棟など (消防白書より)
2	昭和58年 (1983年)	昭和58年7月豪雨	7月20日～7月29日	島根県を中心に大雨。	死者112名、行方不明者5名、負傷者193名、住家全壊1,098棟、半壊2,040棟、床上浸水7,484棟、床下浸水11,264棟など (消防白書より)
3	昭和57年 (1982年)	昭和57年7月豪雨と台風第10号	7月～8月	長崎県を中心に記録的な大雨(長崎豪雨)、台風第10号は東海地方に上陸。	死者427名、行方不明者12名、負傷者1,175名、住家全壊1,120棟、半壊1,919棟、床上浸水45,367棟、床下浸水166,473棟など (消防白書より)
4	昭和56年 (1981年)	昭和56年豪雪	昭和55年 (1980年)12月～昭和56年(1981年)3月	全国的に低温、大雪。	死者133名、行方不明者19名、負傷者2,158名、住家全壊165棟、半壊301棟、床上浸水732棟、床下浸水7,365棟など (消防白書より)
5	昭和54年 (1979年)	台風第20号	10月10日～10月20日	日本列島縦断、全国で暴風。	死者110名、行方不明者5名、負傷者543名、住家全壊139棟、半壊1,287棟、床上浸水8,157棟、床下浸水47,943棟など (消防白書より)
6	昭和52年 (1977年)	沖永良部台風	9月8日～9月10日	沖永良部島で最低気圧907.3hPa。	死者1名、住家損壊5,119棟、浸水3,207棟など (理科年表より)
7	昭和52年 (1977年)	昭和52年豪雪	昭和51年 (1976年)12月～昭和52年(1977年)2月	全国的に大雪。	死者101名、負傷者834名、住家全壊56棟、半壊83棟、床上浸水177棟、床下浸水1,367棟など (消防白書より)
8	昭和51年 (1976年)	台風第17号	9月8日～9月14日	全国的に記録的な大雨。	死者161名、行方不明者10名、負傷者537名、住家全壊1,669棟、半壊3,674棟、床上浸水101,103棟、床下浸水433,392棟など (消防白書より)
9	昭和49年 (1974年)	前線、低気圧、台風第8号	5月29日～8月1日	梅雨前線により全国で大雨。土砂災害多発。	死者145名、行方不明者1名、負傷者496名、住家全壊657棟、半壊1,131棟、床上浸水77,933棟、床下浸水317,623棟など (消防白書より)
10	昭和47年 (1972年)	昭和47年7月豪雨	7月3日～7月15日	全国で豪雨災害相次ぐ。熊本県姫戸町、高知県土佐山田町で土砂崩れにより多数の死者。	死者421名、行方不明者26名、負傷者1,056名、住家全壊2,977棟、半壊10,204棟、床上浸水55,537棟、床下浸水276,291棟など (消防白書より)
11	昭和43年 (1968年)	第3宮古島台風	9月22日～9月27日	またも宮古島で甚大な被害。宮古島で最大瞬間風速79.8m/s。	死者11名、負傷者80名、住家損壊5,715棟、浸水15,322棟など (理科年表より)
12	昭和43年 (1968年)	寒冷前線による大雨	8月17日	近畿地方、東海地方で大雨。岐阜県飛騨川でバス転落。	死者106名、行方不明者13名、負傷者29名、住家全壊64棟、半壊79棟、床上浸水2,061棟、床下浸水13,460棟など (消防白書より)
13	昭和42年 (1967年)	羽越豪雨	8月26日～8月29日	新潟県と山形県で大雨。	死者83名、行方不明者55名、負傷者155名、住家全壊449棟、半壊408棟、床上浸水26,641棟、床下浸水39,542棟など (消防白書より)